

平成 30 年度 姉妹校等留学プログラム

UNIS-UN 世界学生会議派遣

(1) 学校・団体名/種類（派遣高校生の人数）

横浜市立横浜商業高等学校／海外研修（2名）

(2) 渡航先

国／都市：米国／ニューヨーク州ニューヨーク市

外国の高校：United Nations International School

(3) 期間

平成 31 年 3 月 3 日～平成 31 年 3 月 10 日（8 日間）

(4) プログラムの趣旨・目的

UNIS-UN 学生会議の参加により、次の力を養う。

- ・地球規模の問題に関する知識を深める。
- ・テーマに関する自分の意見をまとめ、英語で発信する。
- ・各国の同世代との交流を通じ、多様な文化や考え方を知る。
- ・異なる文化の中で自国の文化を発信する機会をもつ。
- ・交流校 UNIS（国連国際学校）との友好関係を深める。

(5) 活動内容

平成 31 年 3 月 3 日（日）～10 日（日）6 泊 8 日の日程で実施した。生徒はホテル 2 泊、ホームステイ 4 泊でニューヨーク市マンハッタンに滞在した。

成田発、ニューアーク空港に 18:30 着後、空港バスでグランドセントラル駅に到着。

3 日と 4 日はホテル泊で事前学習をした市内研修を行う。

5 日夕方に国連国際学校を訪問し、ホストファミリーと対面し各家庭へ移動した。国連職員の家庭で素晴らしい経験とネットワークをつなぐことができた。

6 日は文化交流会に参加した。各国からの約 15 の希望校から文化や歌・踊りの紹介があった。本校生徒は「日本・学校の風物」をテーマに、クイズや歌を披露して好評を博した。その後、環境や水問題に関するワークショップに参加して、生徒同士の交流が深まった。その後に参加生徒はディナーパーティー、教員は交流会があり、UNIS 校長とコーディネーターにご挨拶した。

7 日・8 日は国連本会議場で学生会議が行われた。今年のテーマは「Ripple Effect : ~The Water Crisis~」でした。新たな国連目標である SDGs（Sustainable Development Goals）の 17 の一つである「#6 Water」に焦点をあて、より具体的な取り組みである Target も取り込みつつ、環境開発とわれわれに不可欠である水資源に関して国際機関の専門家より講演をうけ、各国の代表生徒と国連本会議場で議論して

いく中で、「今やるべきこと」が見えてきた会議だった。ゲストスピーカーの講演後の質疑応答で、本校 A さんが「先進国で水資源の損失を防ぐために出来ること」に関して英語で質問をしました。また多くの生徒と、事前学習の成果を活かし活発に意見交換をしました。

問題解決能力と現地でのコミュニケーション能力など、今後世界で活躍する人材として、この経験から学んだ「生きる力」の意味は大きいであろう。

(6)実績・成果

○派遣高校生 AAさん

2年前の受験時に国際科で学びたいと思っていた私が、この高校を選んだ一番の理由は、「UNIS-UN（国連国際学校会議）」というプログラムに惹かれたからでした。

目標にしていた高校に入学できたものの、得意だったはずの英語の授業で周りの人に圧倒されてしまい自信を無くしかけていた自分がいましたが、英語や国際問題を学んで行くうちに、再びこのプログラムに参加したいという思いは強くなっていきました。

UNIS-UNに選出されるためには、YSFに参加して国際的思考力をつけること。部活や委員会との両立は難しいと先輩からの助言を信じ、学校での学習を大切にするため9年間所属していた劇団も辞めました。

また、英語でのコミュニケーション能力を試すために、1年生の夏休みを利用して日本人が少ないと言われていたマルタ共和国へ2週間の語学留学を体験しました。結果、圧倒的なヨーロッパ人の英語力を目の当たりにし、彼らと同等の語学力をつけたいと強く思うようになり、学校以外でも英語の勉強に励みました。

事前に知らされた今回のテーマ、“Ripple Effect: The water Crisis”は私たちの世代にとって、とても考えさせられるテーマだと思いました。私たちが生きているうちに、起こる深刻な問題だからです。

週2回の先生と選出された生徒3人での事前学習は出発前までに約2か月間ありました。

冬休み中に、カリフォルニアに関する10分間のプレゼンテーションを作りましたが、調べていくうちに、清潔な水道水をいつでも使える状態にあり不自由さを感じていなかった私には、水不足の問題は先進国でも起こっているという事実を初めて知り、背筋が凍るほどの脅威を感じました。

また発展途上国では、私と同じような歳の女の子が学校にも行けず、毎日遠くまで水を汲みに行っています。しかし、大変な思いをして運んだその水も飲むのに安全ではないことを知りました。

事前学習が進む度に、渡米への期待と、他国の人々との新しい出会い、国連の椅子に座っている自分を想像して、楽しみが増していきました。

そして、選出された3人の目標は、“必ず誰か1人でも質問をして成果を残すこと”。そのために、「レクチャーを理解しながら質問を同時に考え、1人が手を上げたら残り2人も挙手し指名される確率を上げる。」という作戦を立てました。

1日目の会議では、UNISを卒業し、機関で働いている女性をはじめとした3人からのレクチャーを受け、発展途上国での水支援の現状を学びました。

その機関はすでに、水の配給所をアフリカの国で確立しており、定期的に安全な水を配給しています。また、そこにある汚染された水を現地の砂を使って濾過しているそうです。地元のものを利用するのはとても良いことですが、映像ではかなり多くの砂を1度に地下から採取していました。しかし、それは環境に影響がないのでしょうか。採取した後、地盤が崩れて、地形が変わってしまうかもしれません。そのことについてすごく聞きたくて、全力で挙手をしたのですが、当ててもらうことができ

ませんでした。

2人目のレクチャーでは、自分の英語力がまだまだであることを痛感しました。あまり、聞き取ることができなかったのです。そのため理解ができていないまま、時間だけはどんどん進んでいくことに、自分の不甲斐なさを感じました。WebTVでレクチャーを聞いていたホストマザーによると、彼のレクチャーは水問題の様々なことを50分に凝縮したとても濃く興味深い内容だったそうです。春休みに、辞書を片手に彼のレクチャーを再び聞いて分析しようと思います。

2日目の会議で、ついに1人目のレクチャーで質問をすることができました。

国連のカメラにズームされ結果を残したいとの思いが、2日間の6人のレクチャー中、5人のレクチャーに手を挙げることに繋がったと思います。

私たちが座っていた席の国名は、Sierra Leone だったのですが、その国の名前が呼ばれた時は、驚きを隠せませんでした。それは、質問したいという思いから、一気に緊張へと変化した瞬間でした。あの場でマイクを使って自分の声が会場に、そして世界中に映像も流れたことは、人生の中でとても貴重な経験になりました。

また、世界中から集まった学生の中から、たくさんの友達を作ることでもでき、そして、インターネットを通じて、今でも繋がっています。

ニューヨーク滞在中、一つだけ残念に思うことがありました。それは英語を話すことについては、普段から触れる機会の多いヨーロッパの学生には、叶わないことと、中国の学生の語学力が想像以上に素晴らしく勢いもあり、日本人はもっと積極的に英語を話す努力をしないといけないと思ってしまったことでした。

今回の体験は、私を大きく変え、成長させてくれました。

以前は、日本語のレクチャーでさえも、与えられた情報の中で、自ら疑問を見つけ、追求するということが舌手でした。しかし、先生との事前学習を重ねるごとに、徐々に英語のまま内容を理解して、頭の中で整理ができるようになり、自信へと繋がったと思います。

人類がどれだけ環境を破壊してしまったのか、今後、人類が水などに困らず環境を維持しながら生存していくためにすべきことは何か、ということに疑問を持ち考えるようになりました。大学では、国際社会だけでなく、人類社会と環境の共存についても学びたいと思うようになりました。

2年前に夢見た国際会議参加、夢が現実となり2日間にわたり国連で体験できたこと。これだけの素晴らしい経験ができたのは、この機会を与えて下さった関係者の方々、そして学校の先生方、事前学習を通じてお互いを向上しあい、一緒に会議に参加した仲間。私たちとUNISの間で、連絡のやりとりなどの全てをして下さった先生。事前学習で私たちを鍛えてくださった先生。先生の事前学習は、国際会議のレクチャーで話された内容のほとんどをカバーすることができました。そして、最後まで支えてくれた、お母さん。

他にもたくさんの人々の協力があったからこそと感謝しています。ありがとうございました。

○派遣高校生 RSさん

今回の旅は一言でいうと「圧倒」でした。体験したことほとんどが人生で初めてのことで、ニューヨークで過ごしている1秒1秒が驚きの1秒となっていました。

まず最初に、市内見学については、修学旅行で予定に組み込まれていないところに行けました。ブルックリンブリッジ、チェルシーマーケット、タイムズスクエア、エンパイアステートビル、ブロードウェイ、セントラルパーク、メトロポリタン美術館、セントパトリック大聖堂、ルーズベルト島、そしてNYUブックストアに行きました。どれもその場所独特の素晴らしいところがあり、感動しました。ですが、その中でも私の頭に強く印象が残っているのはブロードウェイで見た「オペラ座の怪人」とメトロポリタン美術館です。正規のミュージカルを見るのは人生で初めてで装飾品や出演者のリアリティ、そして迫力が素晴らしかったです。帰国してもそこで聞いた歌声と1つ1つの場面が頭から離れません。メトロポリタン美術館は、広すぎてすべてのエリアをじっくりとまわることができなかったのですが、世界史で習ったエジプトの美術エリアやギリシアの彫刻を見ることができてとても嬉しかったです。教科書に載っている作品などが多数あり、本当に実物があるのかと感動しました。

市内見学が終わり、UNISへ向かいワークショップなどの交流、会議を行いました。この場で学んだ一番のことは英語の偉大さです。世界から高校生があつまるので、当然全員の第一言語が英語であるわけではありません。その中でも英語でコミュニケーションをとっていることに私は表現ではどう表せばいいのかわからないくらいの素晴らしさを感じました。会議はハードスケジュールの中体力的にきつい部分がありましたが、学校で先生とみっちり水について勉強することでおおまかな内容をつかめる事が出来ました。手を挙げてカウントされても実際当てられることができないことはとても悔しかったです。それをバネにこれからも水や環境についての状況改善策を考えていきたいと思いました。

会議は2日間行われ、合計6名の方のレクチャーを聞きました。水のチャリティ団体から、UNICEF、UNDPなどと色々なところに所属している方から色々な角度から見た水の現状をお話しいただいて、とっても面白かったです。1日目の講師の中にコロンビア大学の教授がいたのですが、農業に使われる水の使用量をどう減少させていくかグラフなど統計をもとにお話を聞いたのですが、2日間の中でこのレクチャーが一番難しかったです。2日目の2番目の方は水に関して本を出版している方で、最初に参加生徒に色々質問をすることから始めていて、とてもレクチャーの内容に入りやすかったです。彼はシリアにおける水の話をしていました。会議の両日ともに1枠ずつディベートのセッションがあったのですが、そこではディベートの肯定、否定の意見を聞いてそれぞれ席で分かれてforかagainstの立場を決めるというものでした。それぞれの席にどっち側の意見かを聞くときに自分たちの意見が勝つようにソワソワしながら待っていました。1年生の時に現代社会でディベートを行ったのですが、その時よりもディベートに入り込めてとても勉強になりました。

2日間の会議は長そうにみえてとっても短く感じましたが、その間にたくさんの知識を得たりと今までの以上の学びの場となりました。私は今まであまり環境について詳しくなく、興味もあまりなかったのですが今回の会議を機に日本も含めて地球全体が気候変動に侵されていると知ること、大学でもっと詳しく解決策を探していきたい、とくにモルディブなどの島国が気候変動によって沈んでしまう事についてもっと助け合っていきたいと思いました。今、こうして夢を新しく持てることは会議に参加することができたからだと思います。

その後の日本語ディスカッションでは、福島や山形そして同じ横浜市内の高校生と日本における水問題についてディスカッションをしました。そこでは、私はまだ知識不足であることなどを実感しま

した。状況を知らずして日本を語ることはできないので、もっと日本における状況を深めていきたいです。福島の方は、東日本大震災を経験したことなどから私とは違った観点を持っていてとても貴重な意見を聞くことができました。

その後のダンスパーティーでは前日に行われたワークショップやディナーパーティーで仲良くなった友達と交流することができました。人生の中でダンスパーティーというものは初めてで、どうすればいいのかわからなかったけど周りを見てどうすればいいか学ぶことができました。仲良くなった友達もスペイン語圏であったり韓国語圏であったり英語が母国語ではないけど英語でコミュニケーションをとることで会話を深めることができました。

そして、UNISにいる間はUNISの生徒の家にホームステイをしました。普通のホームステイでは味わえないようなことができました。特にお母様、ホストシスターと国連について、日本の女性推進活動などの政治について語ったことはとても貴重な時間となりました。ニューヨークで過ごした1週間はあっという間に過ぎてしまい、日本に帰ったら期末テストが待っているという事もあり、帰国するのがとても悲しかったです。今回行ったメンバーは私含めて2年生2人、1年生1人だったのですが、日を重ねるごとにお互い中を深めることができ学校内、外どちらでも有意義な時間を過ごすことができました。私の短い17年という人生で一番刺激的で思い出に残る旅でした。

